香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第56号　2017.3

年長児の手作り大根入りおでん
ありがとう，おいしいよ!

じゃんけんぽん，みんなできめよう!

瀬戸大橋

目　次

・今，学園では
　幼稚園　p 2・3
　小学校　p 4
　中学校　p 5
　特別支援学校　p 6
　特別支援教室「すばる」　p 7
・ＰＴＡ活動（松韻会・親和会）　p 8・9
・坂出学園１～３月のあゆみ　p 10

研究主題　～つながる～ 子どもたちの生活を支えるⅡ

1月27日（金），第61回附属幼稚園研究発表会を開催しました。県内外から約220名の参会者をお迎えし，盛会裏に終えることができました。

公開保育

～しっぽとり～
思いや考えを出し合いながら，友達と遊びを進めていくことを楽しめるように。

1．研究の概要

（1）研究テーマについて

「子どもたちの生活を支える」とは，一人一人の子どもの育ちが充実することだと考え，“体験”をキーワードにして研究を進めてきました。前年度は，一つ一つの体験を丁寧に見取り，今年度は，体験と体験のつながる過程を見取ることを研究の柱としています。体験のつながる過程において，子どもがどのような育ちを歩んでいるのかを見取ることで，子どもの生活を支えていきたいと考えています。

（2）研究の目的・内容・方法

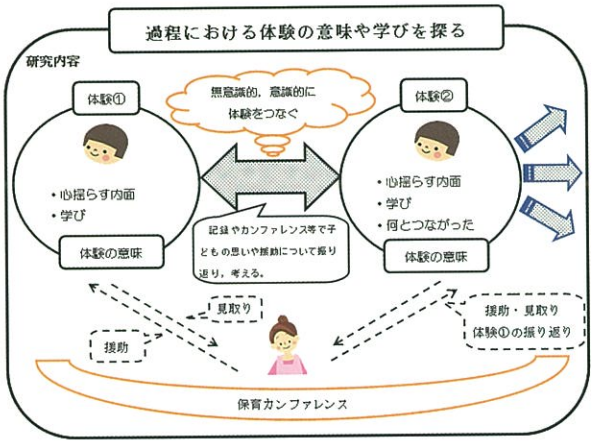
目的：一つ一つの体験がどのようにつながっているのか，また，その過程においての子どもの体験の意味や学び，教師の援助について探る。

内容　（右図参照）：

①子どもが一つの体験の中で心を揺らしている内面やその人にとっての体験の意味，学びを探っていく。

②子ども自身が何をつないでいるのか，何とつながろうとしているのか，結果的に何とつながったのか過程を通してどのような意味や学びがあったのかを探る。

③豊かな体験を支える教師の援助を探る。



方法：保育記録を基に，子どもや遊びを理解する。また，日々の保育のことや事例検討のカンファレンスを行うことで，多様な意見を出し合い，考えを深め合い，それらを積み重ねていく。

2．研究の成果・課題

成果として，明らかになったこと

○同じ遊びの中にも，一人一人が体験していることは違い，体験の意味が一人一人にあること。

○同じ遊びの中で興味関心をもつ，試行錯誤する，葛藤するなど体験は繰り返されていること。また，繰り返されることにより，体験の質は広がったり深まったりしていること。

○体験の中には，多様な学びがあること。

○体験がつながる過程は，子どもの育ちの過程であること。

○体験がつながるためには，一つ一つの体験を充分に保障されることが大切であること。

○一つの体験は多様な体験へとつながる可能性をもっていること。

今後の課題

○体験がつながる過程をさらに長いスパンで追い，育ち（学び）の過程をとらえる。

○体験が生かされ，新たな体験となったときのつながりを探る。

○個の体験と集団の体験のつながりを探る。

来年度に向けて，これらの研究を進めていきたいと考えます。

講演 『幼児期の学ぶ力とは何か』
―乳幼児期に育つ大切なものとは―

福島大学　人間発達文化学類　　教授　大宮　勇雄　先生

幼児教育の研究者として，New Zealandの幼児教育理念の基盤として実践されているLearning Story（学びの物語）について研究を深められ，日本の幼児教育について示唆を与えてくださっている大宮勇雄先生に講演をいただきました。

自分の幼児期を思い出すことができるでしょうか。心に残っている人との出会い，もの・こととのふれ合いは，いかがでしょうか。大人になった私たちは，「今を生きている幼児期の子ども（たち）」の世界をどう見つめ，どう支えていくことが大事なのでしょうか，考えさせられるお話でした。

「どの子も，どんな子も，誇りをもって生きる権利がある」

毎日，自分らしく思い切って，楽しく，精一杯生きたいという思いを子どもも大人ももっています。アクティブ・ラーニングというのは，自分の思いを主体的に表現し，他者（友達・周りの人）とかかわり合って学び合っていくことです。ですから，自ら「～しよう」，「～したい」という【主体性】が働かないと，アクティブには学べないのです。子どもたちが，自分であることに胸を張って，チャレンジし，育つ（学んでいく）ことを守ること，それは私たち大人の役目です。

「子どもの視点で見てみよう」

子どもの姿・思いをどのように見ていますか。

例えば，子どもの育ちが（大人にとって）順調に見えづらいとき，行動の理由が理解・納得できないとき，否定的に見えるものです。しかしながら，子どもは，肯定的な関係の中で，育ちを保障されます。否定的に見えてしまうとき，大人の見る目・心を少し変えてみることを大切にしたいものです。子どもの成長や発達を子どもの視点から見つめてみると，「学んでいる・育っている」ことが見えてくるものです。

「関心・熱中を育てる」

子どもは好きなことをしているときに深く学んでいます。深く学ぶと，「自分なりの理論」をもって生活をします。好奇心や探究心は，大人の常識に収まらないほど，大きく可能性・柔軟性に充ちています。「関心・熱中」は大事な学力と考えられます。知識を獲得していくことは大切ですが，生かしていくことこそが意味あることです。知識は，次に学ぶための力となるものです。生きていく子どもたちにとって，学んでいく力を溜め込み，身に付けていけるように，育ち・学びの場や機会を創り出していくことが望まれます。

大宮先生からのメッセージ

子どもの学びは、「地下茎で咲く花」

研究主題

教育研究発表会に県内外から1250名参加

１月26日と27日の２日間，第99回附属坂出小学校教育研究発表会が行われました。県内外の小中学校や教育関係機関より，２日間で延べ約1250名の参会者をお迎えし，本校の研究実践をご覧いただくとともに，全国にその意義と歩みを発信することができました。

本年度は，「学びに熱中する子どもの育成」をテーマとし，学習への意欲面を重視した研究を進めてきました。東京大学から市川伸一先生，文部科学省から澤井陽介視学官，水戸部修治調査官，笠井健一調査官，鳴川哲也調査官，香川大学から七條正典先生，坂井聡先生，植田和也先生を招いて研究の方向性について確認するとともに，18本の研究授業ではそれを具現化した形で披露し，参会者から貴重なご意見をいただきました。

会の準備や運営では，松韻会役員，常任委員の方々，学生の皆さんの多大なる協力をいただきました。寒い中で受付や交通案内等をしてくださり，本当にありがとうございました。

研究授業

４年　社会科「過疎の島はつながりを求めた～企業の島からアートの島へ～」　渡部（わたなべ）　岳史（たけし）

【協力体制シートの活用】

地方創生。政府の願いとは裏腹に過疎・高齢化の波は，以前より大きく私たちの生活に押し寄せてきています。しかし，特に過疎化が進んでいる離島での取組の中には，その流れを変えるものがあります。そんな直島から広がるアートプロジェクトを教材にして授業を展開しました。

校外学習で直島に行き，多くの観光客に出会った子どもたちは，「どうして交通の便が悪い島に多くの人が来て賑わっているのだろう。」という問題をもちました。そして，「作品を見に来るためだ。」「でも世界中から来ているのは他に理由があるはずだ。」等と次々に意見を出し「いつごろから多くの観光客が来始めたのだろう。」と視野を広げ，友だちと話し合いながらこの問題を追究していきました。さらに，見付けてきた事象を捉え直すことで「福武さんは芸術家とお年寄りがつながり自然豊かな直島を活気のある島にしたいと思っていたな。」「島民は観光客に道案内をして島の発展に協力しようとしている。」等を結び付け，それらが直島全体の魅力につながっていることを明らかにしていったのです。このような学習を積み上げることで，多くの人々が瀬戸内海の自然を生かした町づくりに携わり，ここまで島を発展させてきたことや，観光客が瀬戸内海の美しさと共にあるアート作品を求め島を訪れ，それらの人々を受け入れるために島民やボランティアの人たちが助け合い支え合っていることを理解していきました。そして，直島の人たちは，自分たちが住む地域を経済的に発展させるだけでなく，人と人とのつながりを大切にしていることを捉えていきました。

【困ったら近くの友達と相談】

５年　体育科保健「見つけよう！自分に合った不安や悩みの対処法」　河村（かわむら）　千種（ちぐさ）

【先生の対処法を例に考える】

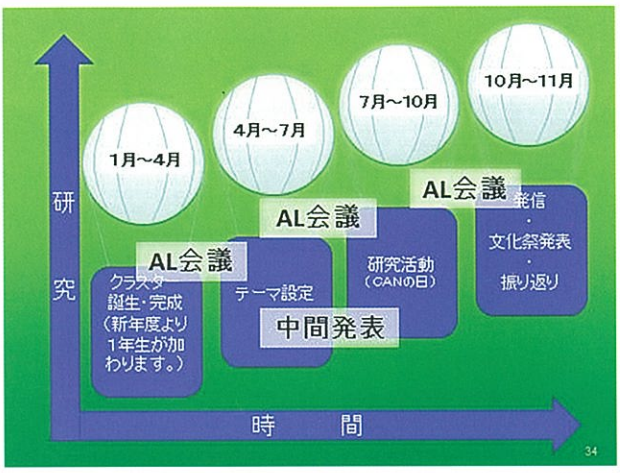
本単元で子どもたちは，思春期の心の発達・変化に伴う不安や悩みへの対処法を学んでいきました。前時までに，年齢に伴って「感情・社会性・思考力」等が発達している心の状態と，思春期にさしかかった現在の自分の心の状態とを照らし合わせ，「不安や悩みがあるときに友達に相談しても，まだすっきりしないな。」等と自己の課題を捉えていきました。本時では，まず先生の不安や悩みの対処法を考えていくことで，自分が考えていた以外にも対処法がたくさんあるということに興味をもった子どもたちは，例えば，友人関係での不安や悩みには，「私だったら家族に相談をするよ。聞いてもらうと，すっきりしたことがあるよ。」「その対処法もいいね。大好きな音楽を聴いて，リラックスをするよ。」等と話し合うことで，さまざまな対処法とそのよさに気付いていきました。話し合った後，自分の不安や悩みに対して「私はがまんしていることが多かったけど，スクールカウンセラー（SC）に相談をしてみよう。」と，これまで見付けた対処法から自分に合うものを選んだり，「僕は，心を落ち着かせるためにゆっくりお風呂に入ることと深呼吸を組み合わせてみようかな。」と，自分に合った対処法を見いだしたりしていくことで，現在や将来の不安や悩みの対処法が他にもないか，さらに適切なものはないかと，進んで見付けていこうとする子どもの姿が見られました。

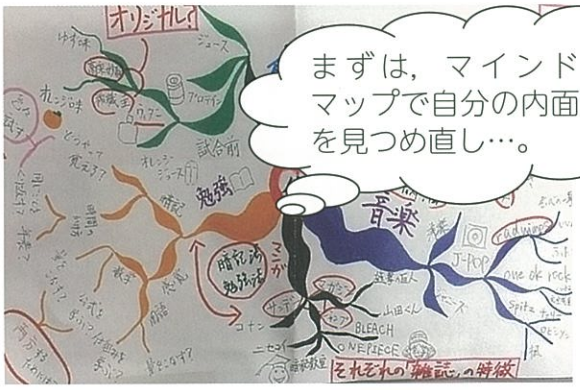
【対処法貯金箱に集める】

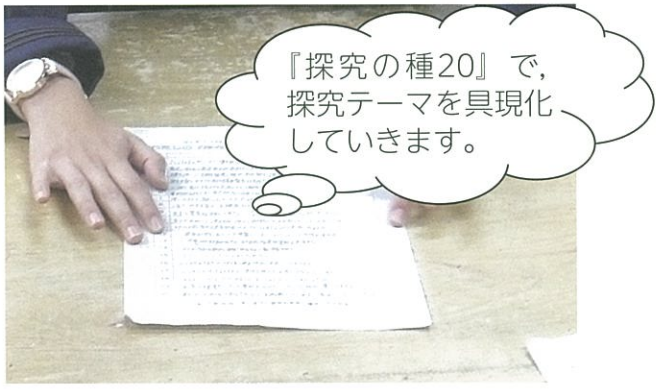
2017 新CANスタート！！

本校の総合学習 CAN は，次の言葉の頭文字をとったものです。
Cluster（クラスター）：異学年合同の小集団
Action Learning（アクション・ラーニング）：他と交流し学ぶ
Narrative Approach（ナラティヴ・アプローチ）：学習の振り返り

総合的な学習の時間を使って，私たちの身の回りの世界すべてを対象に，興味ある内容を探究し，自らの可能性を拡げていく附属坂出中学校だけの「生徒主体の開かれた学習」です。生徒たちは現実の生活の中から自らの興味・関心に応じたテーマを選びます。そして正統的周辺参加論に基づき，１～３年生がそれぞれ１名ずつ参加してクラスターを組み，探究活動を行います。大切なのは，自ら経験することで気付きが生み出されていくプロセスです。



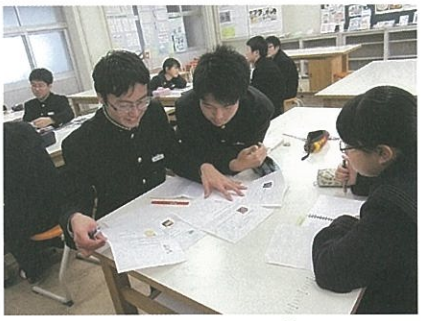




CAN2017は…

参考文献で探求の成果をより確かなものに！

参考文献は，適切に使うことにより，研究論文に根拠や信頼性や正確さをもたらしてくれます。参考文献は，他の研究者の研究により，著者が仮説を立てることができたことに謝意を示し，論文の読者がその基となる文献を探し当てることを可能にするという意味で，研究論文にとって重要なセクションであるとされています。CAN2017では，参考文献を有効利用することで，探究の成果をより確かなものにしようと考えています。



【参考文献を基に探究テーマの検討やプレゼンを行う様子（２月）】

特別支援学校における「やまもも教室」の取組

【やまもも教室とは】

本校では，香川大学教育学部の先生方のご協力を得て，平成６年９月より就学前相談事業（「やまもも教室」）を実施してきました。19年度より特別支援教育相談事業と名称を改め，対象を保育所や幼稚園・こども園の幼児から小学生までとその保護者，担任に広げて「やまもも教室」を開催しています。この事業は，育ちに遅れや偏りの見られる幼児・児童とその保護者や，担任の先生方を対象に養育や保育，教育支援の仕方を共に考え，子どもたちの自立を支援していくことを目的としています。

年間10回程度，土日の午前中に実施しています。内容は以下のとおりです。

（１）子どもたちの自立への手助けをします。
○遊びや集団活動を中心とした活動，日常生活指導などへのアドバイスを行います。
○各種発達検査や心理検査等を，ご希望に応じて行います。
（２）保護者や先生方には，お子様の養育や指導上での悩みの相談や具体的な指導についての支援を行います。
（３）大学の先生や専門家などを招いて，専門的なお話をしていただきます。

【主な取り組み】

今年度は，卒業生の保護者や医師，幼児教育や特別支援教育の講座の先生などをお招きして，講演や座談会を実施しました。その他にも，小学部の施設参観や支援ツールの紹介をしたり，事前予約による個別相談会を行ったりしました。また，運動会やふれあい祭りなどの学校行事も開放して自由に参観してもらいました。

施設参観

施設参観では，環境設定や支援ツールについて基本的な説明をした後，小学部を中心に校内を見学してもらい，子どもたちが支援ツールを使って活動している様子のビデオや，実際に使用している教材などを見ていただきました。また，具体的に保護者の方からの質問を受けて，それに応じた様々な教材や支援ツールを紹介してきました。

講演会

講演会や座談会では，大学の先生など専門的な立場からお話をいただき，障害をもつ子どもの保護者や支援者の方には，子どもと向き合うためにはどのような考え方や支援が必要なのかを考える機会となっています。また，卒業生の保護者のお話では，具体的な成長過程や苦労談などを話していただき，様々な保護者の方が共感しながら，今後の子育ての参考にしていただける機会となりました。

プレイルームにて

保護者の方が研修をしている間，子どもたちは，ボランティアの学生と一緒に，集団活動で，身体表現や歌遊びなどの音楽活動をしたり，自由遊びでしっかりと体を動かして遊んだりしています。

また，毎年，個別相談会は多くの方に申込みをいただいています。家庭での様子をお聞きしたり，一緒に来校した子どもの様子を見たりしながら，具体的な悩みの相談を受け，それぞれの子どもの特性に応じたアドバイスを行っています。

特別支援教室「すばる」の実践紹介

感情のコントロールが難しいお子さんに対して，特別支援教室「すばる」でおこなった個別指導の実践を紹介したいと思います。

衝動的に相手を攻撃し周囲の子とトラブルになったり，テレビを見過ぎることを注意されると家族に暴言や暴力が出たりする小学校１年生のA君。A君の家庭での過ごし方についてご家族や本人から話を聴くと，時間を意識せずだらだら過ごしていることが分かりました。そこで，自分の感情を理解し対処することと，注意される状況を減らすため，家庭での過ごし方を見直し自分の行動を意識して変えていくことを指導することにしました。

〈自分の感情を理解し対処すること〉

最初に『カンジョウレンジャー＆カイケツロボ』（エンパワメント研究所）のワークシートを用いて，うれしい・リラックス・怒り（イライラ）の気持ちやそれらの気持ちのときに起こる体の変化について考え，自分の状態を理解しているかを確かめました。A君がイライラした状態になりやすい場面を振り返らせ，イライラする気持ちの度合いの違いを気持ちメーター（感情の程度や強さに応じて５段階で表す）を使って表すよう促しました。このように数値化することで自己の感情を客観的に捉えることを支援し，早い段階でイライラした気持ちを自覚して対処できるようにしました。イライラしたときの対処法としては，いつでもどこでも実践できる腹式呼吸を指導しました。腹式呼吸の練習では，emWave２（パソコンモニターでの心拍数変化の確認をおこなえる装置）を活用しました。腹式呼吸をおこなっているときの状態がモニター上に波形で示されることにより，体の余分な力を抜いて呼吸できているかを確認することができ，徐々に自分で意識しながら腹式呼吸をおこなうことができるようになりました。また家庭でも，寝る前にご家族と練習を重ねたことで，上手に腹式呼吸をおこなうことができるようになり，呼吸の前後でイライラした気持ちの程度が変化したことを実感できるようにもなりました。

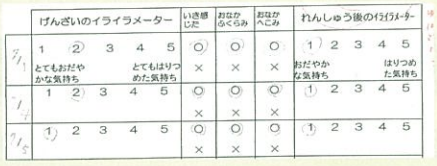


図１：腹式呼吸練習前後の変化

〈自分で意識して行動し生活リズムを作ること〉

A君はテレビをだらだら見続けることでするべきことが後回しになり，そのことで注意を受けると注意した相手に怒りをぶつけていました。注意を受ける状況を避けるため，本児自身の行動を変容させることに取り組みました。まずは，家庭での過ごし方を振り返り，行動の自覚を促しました。朝の身支度はお家の方にほとんど手伝ってもらっていたので，何時までに何をするのか，何分間でどうするのか，時間を意識しながら自分で身支度をする練習から始めました。指導者と相談して１週間の目標を設定し，達成できたかどうかをチェック表に自分で記入するようにしました。チェック表を用いたことで達成感を味わうことができ，目標達成への意欲も高まりました。そして，着替えや起床は自分でできるようになりました。

次に，帰宅してから就寝するまでの時間を帯状のタイムテーブルで表し，何時までに何をするのかを決めて記入するようにしました。目に見えない時間をタイムテーブルに置き換えることで，だらだら過ごしていた時間の使い方を見直すことができ，晩ご飯やおやつを食べる時間に変化が見られるようになりました。

図２：朝の身支度チェック表

松韻会だより

幼稚園より

お餅つき会

12月20日に坂出白峰ライオンズクラブの方々のご協力で「お餅つき会」が行われました。園児たちの「よいしょ！よいしょ！」の掛け声に合わせて，元気いっぱいに餅つき会が始まりました。

青組さんから順番に，とても大きなきねをライオンズクラブの方に支えられながら持ち上げ，力一杯餅つきを体験しました。エビ餅，のり餅，あん餅，白餅と色とりどりの餅を作りました。心を込めて自分たちのついた餅を丸めて，笑顔で嬉しそうに頂きました。とても貴重な心温まる経験ができました。

あったかい　おいしいね

柔らかく丸めて…

力強くぺったん!

新春ふれあい登山

１月11日，とても厳しい寒さの中，幼稚園の全園児と保護者と先生方が，一緒に「角山」に登りました。黄組さんは初めての，青組さんは幼稚園生活最後の登山です。黄組さんは青組さんに手を引かれ，赤組さんは２回目の登山ということもあり，自分で一生懸命登りました。頂上に着くと，どの子もみんな達成感を味わいながら，山頂からの景色を眺めたり，木の実や落ち葉を拾ったり，自然とのふれあいを楽しみました。寒さに負けず全園児しっかりと登りきることができました。

角山～青い海と青い空～

小学校より

坂出市PTAソフトボール大会

12月４日（日），坂出市PTAソフトボール大会が林田町総社グランドにて開催され，幼稚園１チーム，小学校２チームで参加しました。結果は，幼稚園チームが２年連続準優勝，小学校チームは，途中雨のため，試合中止となり連続優勝とはなりませんでした。校区の広い附属坂出小学校ですが，スポーツを通じて保護者同士の絆が深まるよい機会となりました。

ママーずによるお楽しみ会

12月７日（水），おはなしママーずによるクリスマスの本の読み聞かせがありました。３冊の本を読みましたが，うち１冊は手遊び歌のある「大阪うまいもん」を取り上げ，ママーずのピアノとリコーダーで演奏を付けて大変盛り上がりました。およそ200人の子どもたちと楽しいひとときを過ごしました。

避難訓練とのコラボレーション企画（予定）

“クロスロードを通して想定外を想定内に”

災害時におけるリーダーシップを育てる試みとして，PTAが主体となって発案した企画です。予想のできない様々な災害に見舞われる日本そして世界で，知的に考え臨機応変に対応できる子どもに育ってほしいという願いを込めて企画しました。３月２日（木）に行われる避難訓練に合わせて高学年を対象に予定しています。災害時における対処法について，あらかじめ用意された選択肢の中から一つを選び，なぜその方法を選んだのかを話し合ったり，別の方法を選んだ子どもたちの意見を聞いたりして対応を学ぶことができる取組です。

中学校より

「松韻会カフェ」

12月３日（日）オープンスクールの日に，今年も多目的室で「松韻会カフェ」を開きました。コーヒー・紅茶を￥100で提供し，附属グッズ・総合学習CANで生徒が開発したオリジナルのどらやきの販売も併せて行いました。短い時間ではありましたが，たくさんの方々に来ていただき，修学旅行や運動会のビデオを観たり，休憩したり，ゆっくりした時間を過ごしていただいたようです。

「保護者による進路指導」

オープンスクールでは，１・２年生を対象とした進路指導の一環として，保護者の方々に講師を募り，子どもたちにそれぞれの職業の内容や経験を話していただく「保護者による進路指導」を行いました。昨年より始まりましたが，今年も医師，政治家，会計士，消防士，銀行員，司法書士，公認会計士，道路建設・管理，自動車学校など９名の保護者の方に講師になっていただき，50分を前半・後半に分け子どもたちに話をしていただきました。いろいろな職業の話を直接聞くことで，自分の将来について考えるきっかけになる有意義な時間になったことと思います。来年度も引き続き行いたいと思いますので，保護者の皆様，奮ってご参加ください！

特別支援学校より

卒業生保護者との交流会

親和会

研修部では，毎年，本校を卒業されたお子様の保護者の方をお招きして，交流会をしています。今年度は，２月28日に開催しました。

和気あいあいとした雰囲気の中で，子育てのこと，日々の生活のこと，就職のことなどなど，今困っていることや将来のことを聞ける，とても有意義な時間となりました。

本校からも，たくさんの保護者の方が参加してくださいました。

この会が，私たちのこれからの子育てに役立つよう，これからも続けていきたいと思っておりますので，たくさんの方の参加をよろしくお願いします。

坂出学園１月～３月のあゆみ

３年生激励会

１月10日(火)，３年生激励会が行われました。もうすぐ受験を迎える３年生の合格を祈願し，１・２年生一人一人の応援メッセージを記した合格絵馬とシクラメンを３年生に贈りました。メッセージには「最後まであきらめないで，夢の実現に向けて頑張ってください。私たちも全力で応援しています。」等，先輩方が無事突破できるようにとの願いが込められていました。この合格絵馬は１・２年生全員が寄せ書きをして作ったもので，これまでお世話になったことへの感謝の気持ちがこもっています。

冷え込みが厳しい体育館で行われましたが，今年も附坂中生の強い絆が感じられる心温まる会となりました。

13歳の自律教室

１月24日(火)，１年生を対象に13歳の自律教室が行われました。今年度は，香川県教育委員会，香川県警，そして歌手のmimikaさんが講師となって，年齢によって警察の対応が違うことや，身近な出来事から犯罪になることを学びました。「LINEに何気なく写真を掲載したことから思わぬ犯罪に巻き込まれることがあると知った。」等，今の自分を振り返り，自律へのきっかけとなる有意義な時間となりました。

中学校

丸亀ハーフマラソン招待選手との交流会

２月３日（金），香川丸亀国際ハーフマラソン大会に招待されたアメリカ人のシャレーン・フラナガン選手とエイミー・クラッグ選手が小学校へ来てくださり，全校生と交流会を行いました。お２人ともリオ・オリンピックの女子マラソンに出場されており，それぞれ６位，９位という実力者です。

交流会では，興味津々の子どもたちから多くの質問があり，通訳を介しながらお２人が丁寧に答えてくださいました。「努力し続けることが大切」「苦しいときに心の支えになっているのは，家族や周りの人々への感謝の気持ちである」というお話があり，子どもたちの成長に向けて大切なことを伝えてくださいました。また，子どもたちといっしょに走って親交を深めた後，美しいランニングフォームで運動場のトラックを走ると，子どもたちは憧れのまなざしで見入っていました。

２日後に行われた大会では，エイミー・クラッグ選手が自己ベストのタイムで２位となり，大会後にはツイッターで「多くの子どもと共に走り，力をもらった」とのコメントがありました。交流させていただいた私たちとしてもうれしいニュースとなりました。

小学校

特別支援学校

不審者避難訓練がありました

２月６日（月），不審者避難訓練がありました。今回の訓練の目的は授業中の不審者の侵入に対して，放送や指示を聞き，落ち着いて避難することができる態度と知識を身に付けることです。

当日は坂出警察署の方が不審者役となり，訓練を行いました。子どもたちは職員の誘導で，各学部の鍵が掛かる場所に，全員速やかに避難することができました。

その後，体育館に集合し，県警の安全・安心まちづくり教育隊の方による，人形を使った，自分の命を守るポイントについてのお話を聞きました。

不審者が現れたときには大きな声で「助けて」と叫んだり，安全な所へ逃げたりするなど，自分の命を守る５つのポイントを教えていただきました。

また，子どもたちの代表が不審者に声を掛けられた場合の行動を実演し，教えていただいたポイントが実際に行動に移せるかどうかを確かめる学習も行いました。

「分かってはいても，その場になると怖くて動けない」「誰かと一緒にいると，大きい声が出しやすくなるような気がする」など，子どもたちからは率直な感想が聞こえてきました。

何よりも大切な子どもたちの命。このような訓練を積み重ね，子どもたちの大切な命を守っていきたいと考えています。

幼稚園

春　大きくなる喜びいっぱいの子どもたち

「あ，ピンクの花。」と梅の花を見上げる３歳児。「○○ちゃん，ままごとしよう。ごちそうだよ。」と友達と楽しいやりとりをしている姿，追いかけ合うわくわく感を感じての鬼ごっこをする姿など，友達と一緒に生活する心地よさ，うれしさを体にため込んでいます。そんな３歳児がよく言葉にするのが，「もう大きくなったからね。」きっと自分でできることが増え，うれしく誇らしい気持ちを伝えたいのでしょう。

５歳児の姿をじっと見つめてきた４歳児，あこがれていることを試して取り込んでいく姿があちこちで見かけられます。今まで，まねっこだったものが，自分たち流に変えているところに成長を感じます。５歳児のサッカーに加わったり少し難しい製作遊びにもじっくりと真剣な面持ちで向き合ったりしている姿もあります。うまくいかないことをなんとか乗り切っていく強さや自信が背中を押してくれています。

３日間の小学校体験をした５歳児。もうすぐ小学生であることのわくわく感とドキドキ感が心を満たし，「１年青組さん」という魔法の言葉を担任の先生からかけられ，笑顔が光っていました。低学年や５年生とふれあい，校長先生，副校長先生をはじめとした先生方との出会いの中，「～なことをしてみたい」「～をやってみる」という意欲と学びの源を広げている子どもたちのエネルギーのすばらしさを感じます。子どもが子どもの感性と力を存分に生かして，すくすく伸びていけますように。

編集後記

春の訪れが小鳥の声や小さな花の蕾に感じられる頃。新しい「いのち」の始まりとともに，「新たな生活」へと歩き出す期待と清々しさも心に生まれます。卒園式，卒業式を迎える子どもたちが，家族や友達，先生，周りの方々に支えられ，成長してきていることをうれしく思います。お互いがつながり合って，生きていくという喜びや安心が今後もずっと支えとなることを願います。かかわり合う中で，人は感じ考え，今までの自分よりも少しずつ大きくなっていく，自然のいとなみが伝えてくれるように，「今」を大切に丁寧に生活していきたいものです。

保護者の皆様をはじめ，関係の皆様方には，いつも温かいご支援とご協力いただきまして，ありがとうございます。

来年度も，どうぞよろしくお願いいたします。

発行年月日：2017年３月９日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

倉野　晴代　（附属幼稚園）

樽本　導和　藪内　雅昭（附属坂出小学校）

小林　理昭　大西　光宏（附属坂出中学校）

合田　卓生　妹尾　恭子（附属特別支援学校）